

見学会

門木 秀一 (かどき しゅういち)

見学会部会長, 北陸電力㈱ 土木部火力建設チーム 専任課長



1. はじめに

富山県は、立山連峰など周囲を3000 m級の山々に囲まれ、海岸からの景観はまさしく天然の円形劇場とも言われて世界でもまれな眺望となっています。一方で、急峻な山々が織りなす様々な課題を抱えてきました。今回は、そうした課題への取り組みを視察いただけるよう企画しました。参加者の皆様の感想などを含め、その概要について報告します。

2. 見学会のコース

(1) 砂防のメッカ 立山カルデラ砂防施設コース

2億m³もの堆積土砂の流出を抑えるため天涯の地で営々と続けられる日本でも有数の立山カルデラでの砂防事業を視察しました。

立山カルデラ博物館、天涯の湯(昼食)、白岩下流展望台で砂防ダム高としては日本一の白岩堰堤(口絵写真—45)、六九谷展望台(口絵写真—46)、湯川12号堰堤、立山温泉跡、多枝原平展望台、幸田文文学碑(口絵写真—47)などを急ぎ足でまわりました。「もっとゆっくり見たい」と言う声もありましたが、午後からは雲行きが怪しくなり、短時間での視察を余儀なくされました。バスに乗り、立山カルデラ出口に向かう途中で雨が降り出し、濡れることなく帰路についたことは幸運でした。自然の驚異と富山平野を護る「護天涯」の気概を感じることができました。

参加者30名(募集定員34名)7月26日(金)実施



写真—1 天涯の湯での昼食

(2) 黒部ダム・高熱隧道コース

人跡未踏の黒部峡谷で、言語を絶する苦闘の未完成した黒部川第四発電所や黒部ダムを視察しました(口絵写真—48~49)。

樺平より竖坑エレベータ、上部専用軌道を乗り次いで地下の黒部川第四発電所へ。途中高熱隧道の熱気を感じ、展望台より秘境黒部の大自然を望みました。インクライン、トンネルバスを経て黒部ダムへ。ロックテスト坑を視察し、堤体内の監査廊を歩き、観光放水(口絵写真—49)を真近に見て、ダムのスケールの大きさに圧倒されました。世紀の難工事を完成させた電源開発にける気概を感じることができました。

参加者18名(募集定員18名)7月26日(金)実施



写真—2 黒部川第四発電所での説明

(3) 富岩水上ライン・岩瀬浜視察コース

富山市中心部のオアシス「富岩運河環水公園」から国の重要文化財である「中島閘門」や北前船交易で繁栄した港町「岩瀬」までをソーラー船にてクルーズ(口絵写真—50~52)しました。

「中島閘門」では、水門の操作を視察し、実際にソーラー船に乗って体験(水上エレベータ)し、昭和初期の高い土木技術にふれました。クルーズの後は、岩瀬の町並みをボランティアの方に案内していただき、北前船の寄港地として繁栄した古きよき港町の散策を楽しみました。

参加者11名(募集定員44名)7月25日(木)実施

3. おわりに

3コースとも天候に恵まれ、無事終了することができました。これもひとえに見学先の説明の方々、運営にあたっていただいたスタッフの皆様方、またご参加いただいた方々のご協力のたまものと、感謝申し上げます。特に国土交通省北陸地方整備局、富山県、富山市、関西電力㈱の関係の皆様には大変お世話になりました。誌上を借りてお礼申し上げます。

(原稿受理 2013.8.27)